

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自尊・自浄・自助の三つの要素を育てることで、生徒一人一人を自他に対するよいリーダーとして育成し、「望ましい自己の人生」を獲得する支援を行なう学校づくりをめざす。

人生において「捲土重来」ができる意欲と力を持つ生徒を育てる。

その結果として、心の面でも学びの面でも「三国丘の定時制なら大丈夫」と評価・信頼される学校となることを企図する。

◎自尊 …… 自らをかけたがない存在として大切に思う

◎自浄 …… 自らを正しく、清らかな存在にしようと努める

◎自助 …… 自らを支え、助ける

2 中期的目標

1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）

(1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。

ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科では習熟度別授業を実施し、モジュールを組み入れ、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。

イ ICT機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。

※学校教育自己診断の生徒の授業満足度(平成 26 年度 71%)を毎年引き上げ、平成 29 年度までには 80%とする。

※基礎学力診断テストを、1 年 3 教科で、原則 4 月と次年度 2 月に、同じレベル内容で実施し、生徒の学力伸長度を測定する。

伸長度は毎年引き上げ、平成 27 年度は 35%、28 年度は 40%、以後その伸長度を維持する。

(2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供・理解させる。

ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及びキャリア教育講演会を実施する。

イ 3 年間または 4 年間を見通したキャリア教育を推進し、平成 29 年度までには進路未定者（卒業生総数に対する割合）10%未満とする。

(3) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。

ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた指導体制により、確実な進路実現を図る。

※平成 29 年度までに、学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（卒業生総数に対する割合）90%をめざす。

2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）

(1) 「社会で正しく生きる」ために、法令を守り、他者の人権を尊重する姿勢を身につけさせる。

ア 法と社会と自身の関係を理解できるよう、各年次で弁護士等を講師とした法教育を実施する。

※平成 26 年度は各年次ごとの実施形態を確定したので、平成 29 年度までには各年次 2 回ずつの実施で、定着させる。

イ 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。

※平成 29 年度までには、地域清掃活動、地元保育園等との交流を年間 5 回以上の実施を定着させる。

(2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることに気づかせ、命を大切にすることを最優先とした教育を行なう。

ア 「命」等をテーマに人権研修を行う。

※平成 26 年度は人権教育推進委員会を中心として、安全防災教育や人命尊重のテーマで計 4 回実施したが、人権教育の取り組みのなかに、研修を体系的に組み入れ、平成 29 年度までに計 6 回の研修を定着させる。

(3) 体育祭や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。

ア・総合学習「ふるさと堀探検隊」の参加率 70%以上をめざし、年々参加率をあげ、その学びをとおして郷土愛を育む。

イ・体育祭、文化祭などの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。

(4) 心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。

ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。

イ カウンセリングマインドの育成や、心療内科等に対する理解促進のために、教職員向け課題研修やケース会議を充実させる。

※平成 26 年度は教職員研修を 4 回実施したが、平成 29 年度には年 5 回以上の実施と、さらにケース会議の充実を図る。

※年度末の進級・卒業率（3 年卒業生数＋4 年進級者数／入学者数）を毎年引き上げ、平成 29 年度までに 60%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】・生徒の「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率は 75%と昨年度から 4 ポイント上昇し、「教え方工夫している先生が多い」の肯定率は 78%と 3 ポイント上昇した。そのせいか生徒の「学校に行くのが楽しい」は 77%で 11 ポイントも上昇し、生徒の学校生活に対する意識はプラスの方向に向上している。今後も ICT 機器を有効活用し、わかりやすく楽しい授業を実践し、生徒の高評価につなげていく。次年度も生徒の授業アンケートを前後期 2 回実施し教員本人の振り返り、教科での研究協議や研究授業につなげ、前期から後期への評価結果を向上させる。</p> <p>【生徒指導】・生徒の「担任以外にも～相談できる先生がいる」の肯定率は 62%で前年 55%より 7 ポイントも向上した。生徒の「学校生活について先生の指導は納得できる」の肯定率は 77%で 4 ポイントも上昇した。これもひとえに教職員が多様な生活背景をもつ一人ひとりの生徒に丁寧に対応してきた成果といえる。今後も個別対応をしっかりとするとともに教育相談機能をさらに高めていきたい。</p> <p>【学校運営】・課題である保護者の「授業参観や学校行事に参加」が 63%と 10 ポイントも上昇した。保護者の「学校は教育情報について提供の努力をしている」は 80%の肯定率で昨年度と変化はないが、今後できるだけ保護者へ本校の情報を提供し、本校の教育活動への関心を高めていきたい。</p>	<p>第 1 回（7/18）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制の特徴である、働きながら学ぶ生徒を大切にしてほしい。 ・スマホによるいじめやトラブルの未然防止のために、講演会など実施する。 ・デリバリー給食を食べる生徒をたいせつにしてほしい。 ・特別指導を入れたのはよい。成績を挽回できる生徒が増えるのではないかな。 <p>第 2 回（11/21）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に断ネットを実施して、現実のリアル体験機会を増やす。 ・ふるさと堀で本校の発祥之地（開口神社）の訪問をする。 ・大掃除の回数や時間を増やす。 ・ブラッシング講習の取組みを継続・拡大する。 <p>第 3 回（2/6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の一環として、アルバイトを斡旋しているのは働く意欲を高めるためにもよい。 ・中学に比べ学校教育自己診断の評価が高い。 ・進級・卒業を支援する「特別指導」の取り組みがよい。 ・ボランティア活動や挨拶運動を頑張っている。 ・定時制に違和感があったが、卒業してよかったと言っている。 ・不登校傾向のある生徒に対する個別の細やかな指導がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力伸長と進路実現（本校のキャリア教育の確立）	<p>(1) 学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用</p> <p>イ 学ぶ意欲を引き出す</p> <p>ウ わかりやすく楽しい授業をめざして</p> <p>エ 基礎学力の定着・向上</p> <p>オ 校務処理システムの安定的な運用</p> <p>(2) 年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制 イ キャリア教育の推進</p> <p>(3) 進路実績の向上 ア 広報活動</p> <p>イ 応募前職場見学の実施</p> <p>ウ 個別指導体制</p> <p>エ 卒業予定者の若年無業者の減少</p>	<p>(1) ア・授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートを活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議を実施する。</p> <p>イ・多岐にわたる総合講座を実施し、資格取得を支援し、学ぶ意欲を引き出す。</p> <p>ウ・わかりやすく楽しい授業をめざし、ICT機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。</p> <p>エ・英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。</p> <p>オ・校務処理システムの安定的な運用を図り、時間短縮することで、各教員が生徒と関わる時間を確保する。</p> <p>(2) ア・進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。</p> <p>イ・キャリア教育講演会・進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。</p> <p>(3) ア・積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする</p> <p>イ・学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。</p> <p>ウ・進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。</p> <p>エ・ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。</p>	<p>(1) ア・初任者は年1回研究授業。 ・各教科の研究協議の定期実施（年間3回） ・授業アンケートを年2回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。</p> <p>イ・ワープロ検定、秘書検定の資格取得者数を増やす。</p> <p>ウ・生徒の自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率(H26年度71%)を75%に。</p> <p>エ・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率(H26年度75%)を78%に。</p> <p>オ・基礎学力診断テスト（1年英・数・国）の4月から2月での伸長度35%増とする。</p> <p>イ・各教員が生徒と関わる時間を増やし、生徒の自己診断「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定率(H26年度82%)を85%に。</p> <p>(2) ア・進路・担任合同会議を定期的（年間3回以上）に行う。</p> <p>イ・1・2年次生への進路説明会を年3回、卒業学年への進路説明会を年2回実施。</p> <p>(3) ア・新たに広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。 ・学校HPの月2回の更新。</p> <p>イ・就職希望者全員に応募前職場見学を実施</p> <p>ウ・就職・進学希望者全員への面談・履歴書講座の実施</p> <p>エ・若年無業者の減少：前年度比10%減少（H26年度20%）</p>	<p>(1) ア・初任者の12/9公開研究授業ではICT機器を効果的に利用し、生徒にとってわかりやすい授業を行った。(○)</p> <p>・年間3回実施。(○)</p> <p>・個人・教科の振り返りシートを前期と後期に提出し授業改善に取り組んだ結果、後期の評価平均が上昇した。(○)</p> <p>イ・ワープロ検定12名、秘書検定1名合格。これらの検定により進路意識の向上に役立った。(○)</p> <p>ウ・生徒の自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率が75%と4ポイント上昇した。「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率は78%と3ポイント上昇した。ICT機器を活用した「わかりやすく楽しい」授業の実践により、生徒の高評価につながった。次年度もさらに肯定率を高める授業を実践。(○)</p> <p>エ・基礎学力診断テストの伸長度は英語・数学・国語の順で伸長度が高く、平均して36%の増加となった。英語・数学においては習熟度別授業、少人数の効果が出ている。(○)</p> <p>オ・次年度も本校の定時制業務に適した校務処理システムの構築をめざし、検討を進める。生徒の自己診断の肯定的評価は82%と昨年度と変わらず。個々の生徒と関わる機会が多いが、生徒が意見表明しやすい雰囲気づくりに努め、評価向上をめざす。(△)</p> <p>(2) ア・進路・担任合同会議を年間4回実施し、生徒情報のずれを修正し、意思疎通を行うことで、進路指導における課題解決を図った。(○)</p> <p>イ・進路説明会を実施することで、早い学年から就労、進学に向けた動機づけを行い、卒業学年の生徒には就労もしくは進学への明確な意思決定につなげることができた。(○)</p> <p>(3) ア・新たに学校案内を制作し、1月の学校説明会で活用した。さらに2月、3月と学校説明会を追加開催することで定時制である三国丘高校の存在をアピールしていく。(○)</p> <p>・行事毎にHPの更新することで本校の魅力を外部に発信。(○)</p> <p>イ・就職希望者全員に応募前職場見学を実施(41社)することで生徒の持つイメージと現実のギャップを埋め、就労への意識付けができた。(○)</p> <p>ウ・就職・進学希望者全員への面談により個々の生徒への適切な進路指導を行うことができ生徒のモチベーションを高めることができた。(○)</p> <p>・面談、応募前職場見学、面接練習をおさえた履歴書指導により、自信をもって採用試験にのぞませることができた。(○)</p> <p>エ・個々の生徒への丁寧な進路指導により、学校斡旋希望者22名中21名の内定を勝ち得た。また粘り強い指導により今年度の卒業生の若年無業者は0名となった。(◎)</p>
2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）	<p>(1) 法令を守り、他者の人権を尊重する姿勢の育成 ア 法教育 イ 生徒会中心にボランティア活動の実施 ウ 地域交流の推進</p> <p>(2) 人命尊重の教育の推進 ア 「命」等をテーマとする研修 イ 安全教育の実施 ウ 健康への関心を高める エ 美化意識を高める オ 健康診断受検率の向上 カ う歯0をめざす</p> <p>(3) 各種行事の参加により自尊心を高める ア 郷土愛を育む イ 仲間との交流により豊かな心を育む</p> <p>(4) 教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 支援を必要とする生徒の情報共有 イ 外部機関との連携強化 ウ 渡日生の困り感を解消 エ 相談機関との連携 オ ケース会議の充実 カ 学校課題解決に向けて キ 相談体制の強化 ク 進級・卒業率向上をめざして</p>	<p>(1) ア・各年次で弁護士等を講師とした法教育を実施。卒業年次生については、雇用契約・社会保障等について、追加して実施する。</p> <p>イ・生徒会中心に、地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。</p> <p>ウ・地元保育園との交流活動を計画・実施。</p> <p>(2) ア・人権教育推進委員会を核に「命」等をテーマに研修を行う。</p> <p>イ・生徒指導部中心に、安全教育を計画的に進める。</p> <p>ウ・保健部中心に、生徒の健康への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。</p> <p>エ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。</p> <p>オ・病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を上げる。</p> <p>カ・う歯0をめざし、ブラッシング講習を実施。</p> <p>(3) ア・総合学習「ふるさと堺探検隊」を通じて郷土愛を育み、地域を知る。</p> <p>イ・体育祭、文化祭などの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。</p> <p>(4) ア・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、SCを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。</p> <p>イ・帝塚山学院大学大学院と連携し、ハートケアサポーター機能を高める。</p> <p>ウ・ピア日本語と連携して、渡日生の困り感を解消すべく支援を行う。</p> <p>エ・堺市の相談機関等との連携を継続強化する。</p> <p>オ・生徒の心のケア等必要な支援を協議するためケース会議の充実を図る。</p> <p>カ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。</p> <p>キ・担任、SC、教育相談委員会の連携システムを強化確立し、生徒が相談しやすい環境づくりを行う。</p> <p>ク・年度末の進級・卒業率を通じて、学校への定着を図り、卒業を支援する。</p>	<p>(1) ア・各年次に応じて法教育研修を実施し、生徒の事後アンケートにより意義の理解度の肯定的評価80%以上維持。</p> <p>イ・生徒会中心に、地域清掃ボランティアの生徒参加者1日10名をめざし、年2回実施。</p> <p>ウ・地元の保育園との交流を年末に1回実施。</p> <p>(2) ア・人権教育で「命」等をテーマに研修を行う。</p> <p>イ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行う。生徒アンケートの肯定的評価80%以上めざす。</p> <p>ウ・生徒保健委員会を学校行事時に開催。前年度2回から今年度4回実施。</p> <p>エ・年間2回の大清掃</p> <p>オ・健康診断の受検率（H26年度82%）を85%に向上。</p> <p>カ・歯科医、歯科衛生士によるブラッシング講習実施し、生徒の治療への興味関心を高め、治療完了者(H26年度56%)を60%以上に。</p> <p>(3) ア・生徒の行事参加率70%以上めざす。</p> <p>イ・行事の参加率（出席者数/在学者数）80%以上をめざす。 ・生徒の自己診断「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率(H26年度65%)の10%UPをめざす。</p> <p>(4) ア・教育相談委員会を月2回開催。</p> <p>イ・臨床心理士候補の大学院生が教育相談のサポーターとして活躍。</p> <p>ウ・渡日生の教育活動を支援。</p> <p>エ・各連携会議の年間3回以上の実施</p> <p>オ・ケース会議を年間2回以上実施。</p> <p>カ・教職員向け研修を年間3回以上実施。</p> <p>キ・生徒の自己診断「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」の肯定率(H.26年度55%)を前年度より5%向上させる。</p> <p>ク・年度末の進級・卒業率（3年卒業生数+4年進級者数/入学者数）を前年度の上昇率3～4%（平成26年度48%）</p>	<p>(1) ア・法教育研修1月実施。弁護士9名来校。3、4年18歳選挙権、2年少年事件、1年交通事故をテーマに講話。2つの学年はテーマとして興味があったのか80%を超える評価だったが、生徒全体としての肯定的評価は73.1%だった。(△)</p> <p>イ・地域清掃ボランティアの生徒が前期に12名、後期に15名参加した。地域の方々から感謝の言葉をいただくことができ、生徒の自己有用感につながった。(○)</p> <p>ウ・生徒会生徒及び有志生徒が地元保育園と交流。園児との交流を通じ、次世代の親としての意識を醸成できた。(○)</p> <p>(2) ア・4月に「SNSの利用」、6月「ハローワークツアー」、10月「ブラック企業」、11月「生きているだけで価値がある」、12月「デートDV」等についての研修により他者への思いやり、人権意識を高めることができた。生徒自己診断「人権について学ぶ機会がある」の肯定的評価84%と前年度より73%から大幅増。(◎)</p> <p>イ・地元警察署の警察官による交通安全講習により生徒は加害者となった時の責任の重さを理解した。事後の生徒アンケートの肯定的評価86%と評価も高く、実りある講習会であった。(○)</p> <p>ウ・講習会により薬物乱用はゼッタイにダメという意識を醸成できた。(○)</p> <p>エ・生徒保健委員会を学校行事時に年間4回開催。生徒の美化意識を醸成し、社会ルール順守、マナー向上に役立った。(○)</p> <p>オ・年2回の大清掃実施により、保健委員のリーダーシップを育成することができ、生徒の清掃用具の使用方法的向上が見られた。(○)</p> <p>カ・個々の生徒への丁寧な受検指導により三計測受検率95.8%となり大幅に向上。(◎)</p> <p>キ・ブラッシング講習での生徒の肯定的評価100%、年度末の治療完了報告者は66.7%で生徒の治療への意識を高めることができた。(○)</p> <p>(3) ア・堺祭10/17(土)と同日開催となり、一般の方々との交流も含んだ探検隊となった。土曜日にもかかわらず生徒の参加率は72%であった。クイズに答えながら堺の歴史や文化について学ぶことができたことと生徒には好評であった。(○)</p> <p>イ・生徒の参加率は体育祭80%、文化祭86%となった。 ・生徒の自己診断「文化祭～」の肯定率が昨年度65%から今年80%で15%増加、「体育祭～」の肯定率が昨年61%から今年77%で16%増加。生徒の行事への参画意識、自尊心を高めることができた。(◎)</p> <p>(4) ア・教育相談委員会を月2回定例で開催することにより、支援を必要とする生徒の理解を教員間で共有できた。(○)</p> <p>イ・臨床心理士候補の大学院生たちが教育相談のサポートとしてのべ年30回来校し、教員と協調し生徒の支援にあたり、生徒の自己肯定感を高めた。(○)</p> <p>ウ・ネパール出身生徒を支援していたが、9/1付千葉県の高校(定)に転校。それまで日本語指導及び外部人材による母語補償を行った。(○)</p> <p>エ・個別の生徒ごとに関係機関と連携し、それぞれの生徒にあう支援を行った。外部機関との連携回数は7回。(○)</p> <p>オ・事案が発生した際にケース会議を行った。年間5回実施。(○)</p> <p>カ・「景気動向と学卒求人」「思春期に見られる精神疾患」「AED講習、エビベン講習」等、ネット利用、就労支援、救命救急、人権教育、精神疾患を持つ生徒支援等の専門性を高める教員研修を6回行った。(◎)</p> <p>キ・生徒の自己診断「担任以外で～」の肯定率は62%で前年55%より7ポイント向上した。今後も教育相談機能を充実させて生徒の自己有用感を高める努力を行う。(○)</p> <p>ク・年度末の進級・卒業率を増やすべく、特別指導を新規に取り入れ、生徒にはあきらめない指導を実践した。その効果か、進級・卒業率が66%と大幅に増加した。(◎)</p>